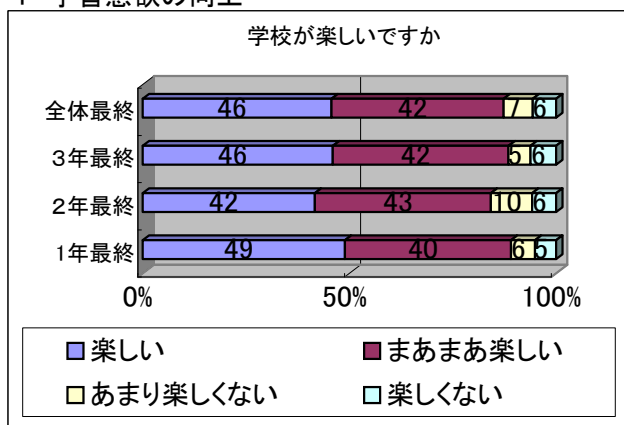
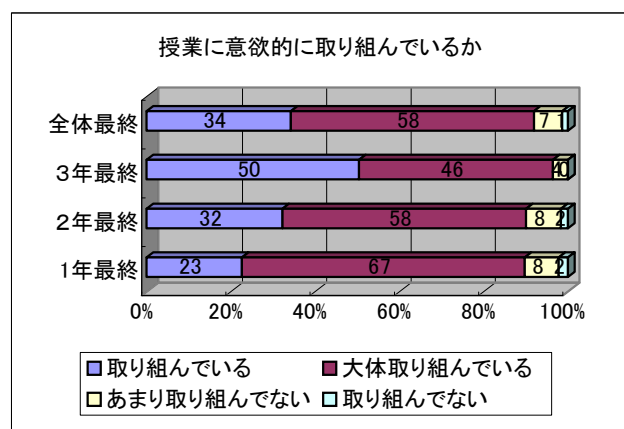


中期経営目標 学習意欲の向上と基礎学力の定着を図る

1 学習意欲の向上

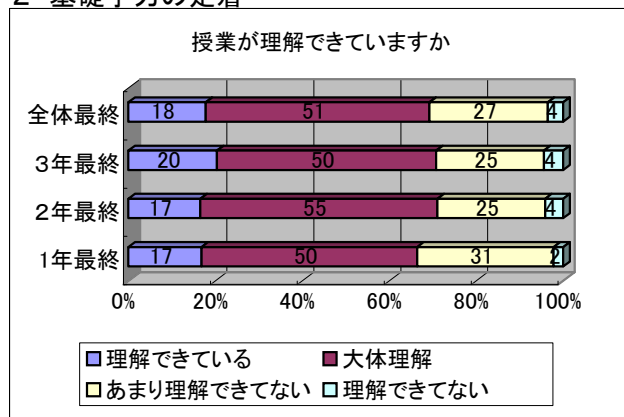


学校が楽しいと思えることが大切なことである。前回と比べて全体では3ポイント上がり88%の生徒が肯定的に「楽しい」と答えている。学年別で見ると、肯定的な割合が2年生が少し低くなっている。全体として、学校が楽しくないと答えている20数名程度の生徒のソーシャルボンド(学校へつなぐ接点になるもの)をどのように考えていかが不登校傾向の減少への手だてとなる。

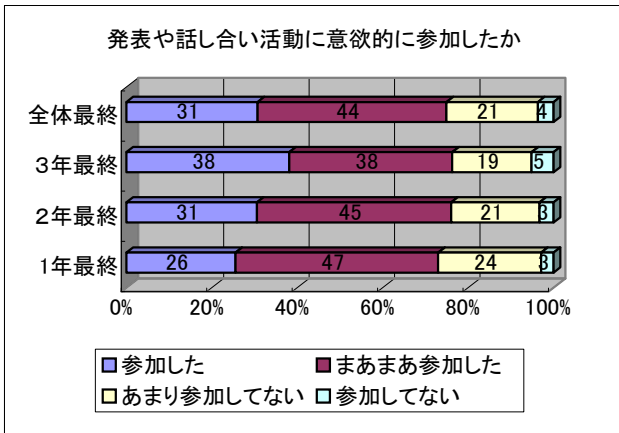


さすがに3年生は、意欲的に取り組んでいる生徒が96%と高い。1・2年生も90%と高い数字ではあるが、「意欲的に取り組んでいる」という割合は減少している。進路という目標をはっきりさせることで意欲にもつなげる面があるが、受験のためだけの学習にならないようにすることも大切である。日々の授業が理解でき、分かる楽しさや喜びが実感できるとやる気も出てくる。そのための教師側の教える技術も向上させるための授業研究や交流を計画的に次年度も進めていく必要があると思う。また、家庭学習の習慣化をどのように各家庭と連携をとっていくかが課題ある。

2 基礎学力の定着



学年がすすむにつれて、授業内容が難しくなっていく、理解度も若干下がる傾向があるが平均的に70%の生徒が理解できていると感じている。ただ、残りの30%の生徒について、きめな実態に即した基礎学力の向上と学習に不安を抱く生徒への支援の工夫と改善を早急に実施することが必要である。

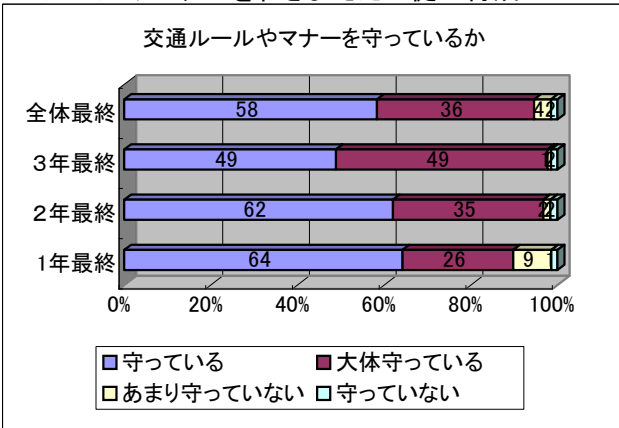


コミュニケーション力は、学習面でも友達関係づくりにおいても、重要な要素であると考えます。今年度も重点項目の一つに掲げて取り組んできました。授業だけでなく道徳や学活、総合的な学習などのさまざまな教育活動の中に位置づけたことにより、昨年度に引き続いて70%台の生徒が肯定的な回答をしており、学校内では少し定着してきたように思われる。

聞き上手になることが、安心して話したり、意見が発表できたり、自分を受け入れてもらえるといった気持ちになる。このことが裏付けとしてなければ、質問や意見も出しにくいので、まず話し手の方を向いてしっかり聞くことを指導してきた。

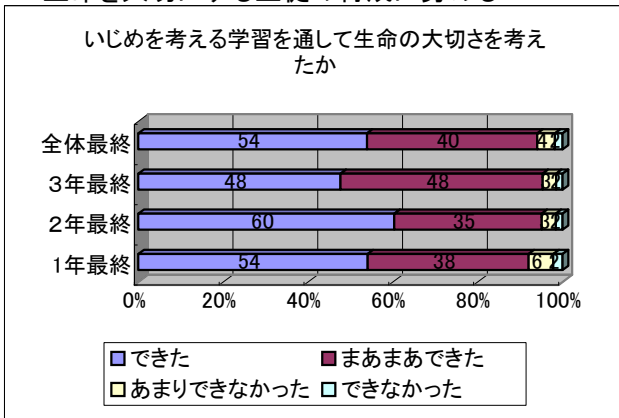
中期経営目標 豊かな心を育む教育を推進する

1 ルールやマナーをわきまえた生徒の育成



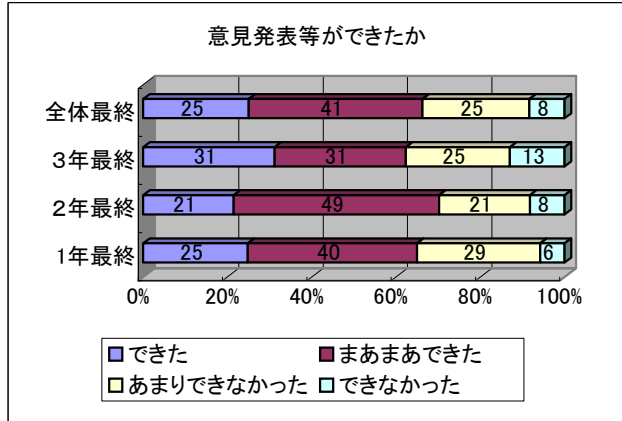
全体として94%の生徒が交通ルール等を守っていると回答している。肯定的回答の内訳を見ると、3年生のしっかり意識して守っている割合が他の学年に比べるとかなり低いことが分かる。地域からも交通ルールやマナーについて、情報をもらうこともある。全校朝会等で呼びかけ生徒へ投げかけ、考えさせてきた。定期試験日の下校指導・休み明けの登校指導や生徒会を中心とした部活動終了時の一斉下校指導などに取り組んできました。その結果、多くの生徒は意識しながら学校生活を送れている。ただ、校内での服装等の着崩れやだらしさはあるので、引き続き指導していきたい。

2 生命を大切にしている生徒の育成に努める



道徳の授業はもとより、全教育活動において取り組んできました。90%以上の生徒が生命の大切さを考えたことと肯定的な回答をしているが、授業等で学んだことを普段の生活や円滑な人間関係等に反映させ、実際の言動面につなげていくことが不十分である。人を傷つける言動は依然としてなくなっていないので、感性だけでなく行動に結びつける指導や教材研究をさらに進めていくことが大切である。

3 コミュニケーション能力のある生徒の育成に努める

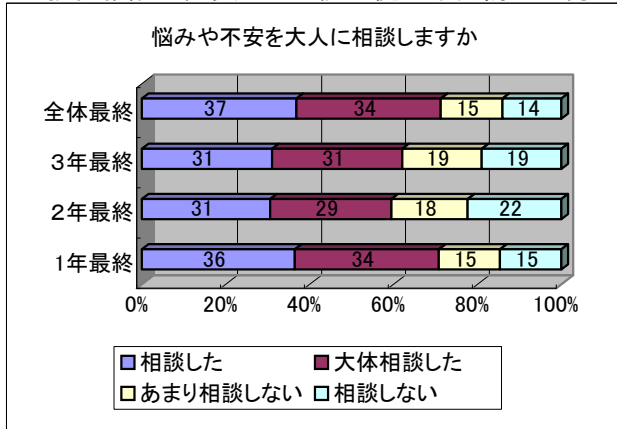


前述したように、コミュニケーション力は、学習面でも友達関係づくりにおいても、重要な要素であると考えている。特に総合的な学習の時間を使い、調べ学習の中でグループ活動を取り入れ、友達と話し合いながら作業を進める場面を設定した。またグループ→学年→全体という道筋の中で、全学年が1回ずつ全校生徒へ向けてのプレゼンテーションを行う取り組みを行った。

まだまだ自分の考えや思いを発表したり、伝えたりすることが十分に定着はしていないが聞き手を意識した発表ができてはじめてるように思う。

中期経営目標 たくましく生きるための心身の健康の維持・増進を図る

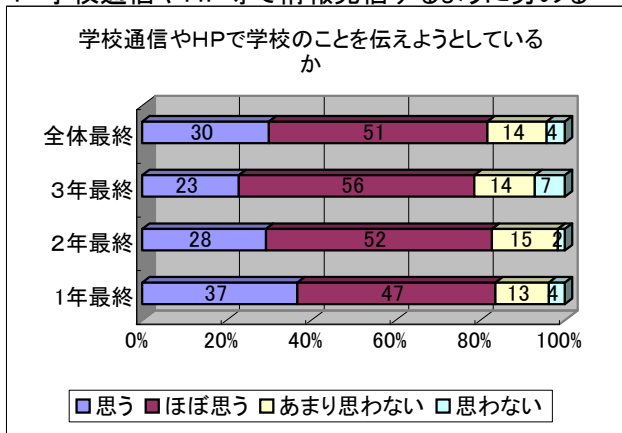
1 教育相談の充実と不登校生徒の未然防止に努める



全体は、前回7月期よりも「相談した」という割合が4ポイント下がった。どの学年も「あまり相談しない」が増加した。このことは、身近な相談できる大人がいない(信頼関係の希薄さ)、相談しても大人が介入するとややこしくなり解決しない等と考えることも一因であるかもしれない。いずれにしても、生徒自身が自己解決できるものとそうでないものとの見極めをしながら、積極的に対応することが必要である。教師側の自己評価「生徒の不安や悩みを十分に受け止めようとしたか」の設問の回答が“80%以上できた”としている。教師は教育相談日を可能な限り増やし生徒の相談に係わる姿勢である。

中期経営目標 学校評価の活用に取り組む

1 学校通信やHP等で情報発信するように努める



今年度からホームページをリニューアルして、少しでも見てみようかと思うものに変える努力をした。ただ、月ごとの更新が不慣れなこともあり定期的にできていない点は今後改善していく必要がある。また、学校通信については月1回の定期発行を実施し、内容・構成等も少し変化させ読みやすいものにしていった。しかし、保護者まで届かない場合もあり約14%の保護者が「読んでいない」現状がある。ただし、学校通信やHPは情報発信の一助であり、これ以外の方法(学級懇談会や学年懇談会等も含め)も考えていかなければならないと思う。